別記様式第６号（第16条第３項，第25条第３項関係）

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博士（　保健学　）	氏名	上野　陽子
学 位 授 与 の 条 件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目

Midwifery scale to support shared decision-making for unplanned pregnancies: A cross-sectional study
（助産師が意図しない妊娠をした女性の意思決定を共有しながら支援するための尺度開発：横断研究）

論文審査担当者

主　　査	教授	川﨑　裕美	印
審査委員	教授	中谷　久恵	
審査委員	准教授	小澤　未緒	

〔論文審査の結果の要旨〕

意図しない妊娠をした女性に対する意思決定支援は，助産師の必要な実践能力のひとつであり，助産師には多職種と連携しながら継続的な支援を行う重要な役割が求められている。しかし，意図しない妊娠をした女性に対して，助産師が女性や多職種，パートナーとの共有型の意思決定を促進するという支援に対する実践能力は明らかになっていない。助産師は自己評価を行うことで，この重要な役割に対する自己認識を高め，意図しない妊娠をした女性への理解を深めることにより，意思決定を共有する支援において質の高いケアを提供できると考えられる。そこで本研究は，意図しない妊娠をした女性の妊娠判明時から妊娠継続か中断かの意思決定をするプロセスにおいて，助産師が女性の意思決定を多職種やパートナーと共有しながら支援する実践能力を自己評価する尺度を作成し，その信頼性と妥当性を検証することを目的とした。

まず，意図しない妊娠をした女性の意思決定支援のケア提供者にインタビュー調査を行い，妊娠継続や産み育てることに関する意思決定を共有して支援するためのプロセスを質的に分析した。研究結果と文献レビューを基盤として 109 項目の質問項目を作成し，尺度項目の内容的妥当性の検討を行い，パイロット調査を経て 45 項目の助産師の実践能力を自己評価する尺度を作成した。次に,作成された尺度を用い医療機関に勤務する助産師を対象に調査を行い，構成概念と基準関連の妥当性，内部一貫性による信頼性を検討した。

研究への協力を 450 施設に対して依頼し，228 施設から承諾を得た。1543 名に調査票を配布し，573 名から回答を得た（回答率 37.1%）。調査票への回答が不完全な対象者を除外し，531 名の回答者を分析対象とした（有効回答率：34.4%）。まず 45 項目の尺度から記述統計量と天井効果および床効果を算出し，天井効果を示した 3 項目を削除した。I-T 相関が 0.30 以下の項目はなかった。残りの 42 項目について探索的因子分析を行った結果，因子負荷が 0.40 未満の 7 項目を削除し，35 個の変数からな

る 5 因子構造の尺度を得た。因子Ⅰ「女性の環境の理解と支援」，因子Ⅱ「専門職や重要なチームメンバーとの協働」は，医療システムに関連し，因子Ⅲ「女性との信頼関係を築きながら意思決定の場をつくる」，因子Ⅳ「女性の真のニーズの焦点化」，因子Ⅴ「女性の自律的な意思決定の促進」は，助産師の個人レベルでの実践能力の評価に関連していた。これらの 5 つの因子間の相関は，0.45 から 0.72（$p<0.01$）の範囲であった。また，本尺度全体の Cronbachα 係数は 0.951，因子Ⅰ～Ⅴの α 係数はそれぞれ 0.863，0.858，0.872，0.854，0.874 であり，内部一貫性が確認された。また，本研究で作成した尺度と対象者が意思決定のプロセスにどの程度関与しているかを測定する「共有意思決定についての質問票」（The Questionnaire about Shared Decision Making for Doctor）との間には 0.37 から 0.56 の相関が認められた（$p<0.01$）。中程度の相関が認められたことより，併存的妥当性を提示できると考えられた。

仕事への関与を測定する日本語版ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度および望ましい看護実践環境を測定する The Practice Environment Scale of the Nursing Work Index 日本語版とは，それぞれ 0.21 と 0.32 の弱い相関が得られた（$p<0.01$）。意図しない妊娠をした女性への助産師の共有意思決定支援は，必ずしも職務・職場満足につながらない可能性が示され，この 2 つの尺度による併存的妥当性は十分とはいえなかった。既知グループ法では，意図しない妊娠をした女性の意思決定を支援する研修に参加した経験のある助産師と，経験のない助産師との平均点は，すべての因子において有意な差があり，研修に参加した経験のない助産師は，5 つの因子すべてにおいて低いスコアを示した。

本結果から，意図しない妊娠をした女性の共有意思決定支援における助産師の実践能力を測定する，5 つの領域を持ち 35 項目で構成される尺度の信頼性と妥当性が確認された。本尺度は助産教育における効果測定指標として，また臨床現場における，助産師が自身の実践を評価し，意図しない妊娠をした女性の共有意思決定支援がどのようなものなのかを認識できる手段として適用できることが示唆された。

以上，本論文は，意図しない妊娠をした女性が妊娠判明時から妊娠継続か中断かの意思決定をするプロセスにおいて，助産師が意思決定を女性や多職種，パートナーと共有しながら支援する実践能力を自己評価する尺度の信頼性と妥当性を検証し，本尺度の有効性を示し，意図しない妊娠をした女性の意思決定支援に大きく貢献する研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は，本論文が著者に博士（保健学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。